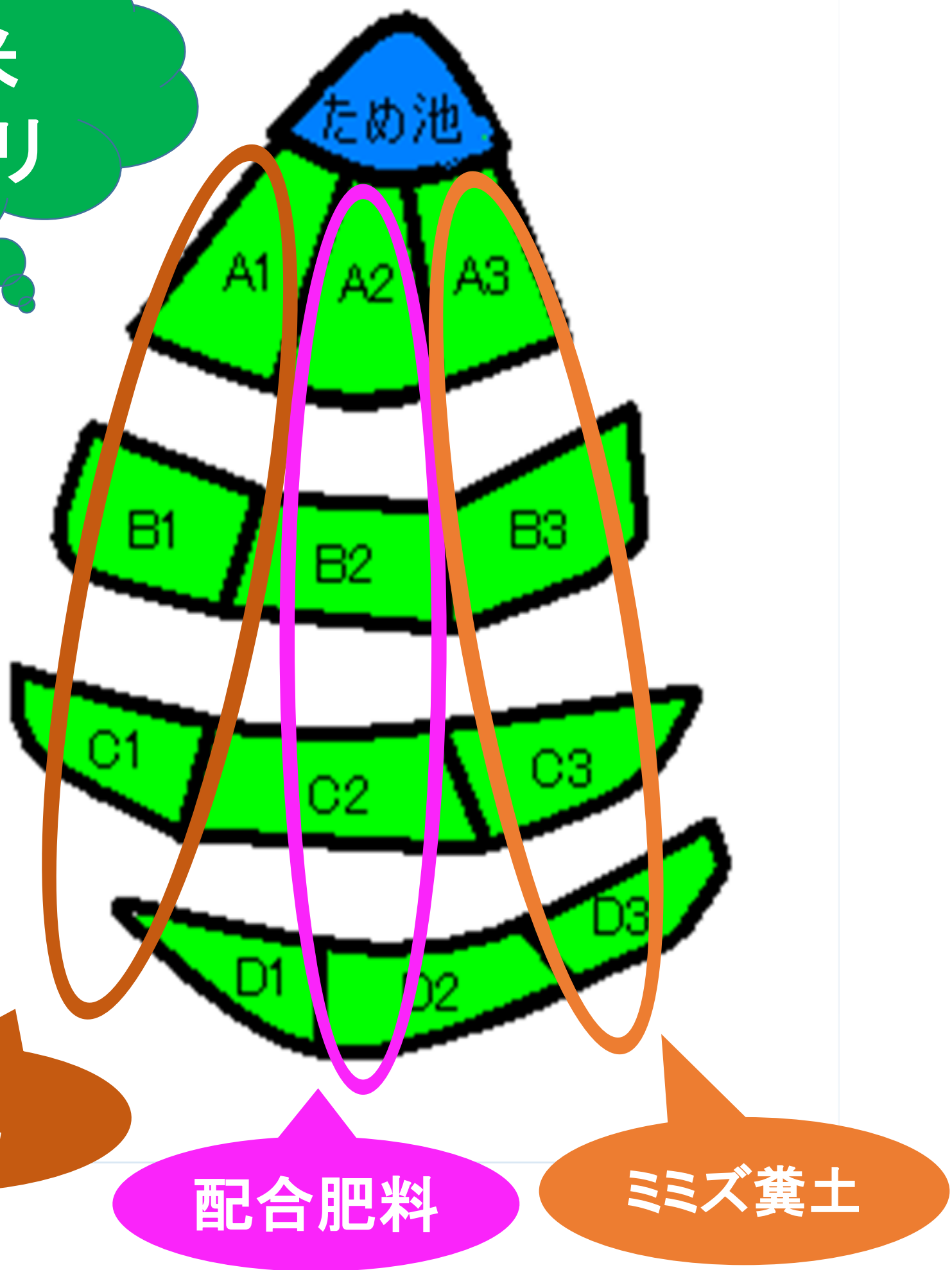


CNES棚田における 肥料の違いによる農業の実践とその評価

うるち米
キヌヒカリ



肥料

堆肥

(大学の肥料)

牛糞・豚糞
福祉材
落ち葉、枝、
おがくず

配合肥料

肥料成分
・窒素 6.0%
・リン酸 6.0%
・カリウム 6.0%

ミミズ糞土

肥料成分
・窒素 0.7%
・リン酸 1.9%
・カリウム 2.6%

肥料投入量

	堆肥	配合肥料	ミミズ糞土
A段	31.8kg	5.3kg	49.3kg
B段	20.6kg	3.7kg	30.3kg
C段	18.4kg	3.2kg	17.9kg
D段	10.9kg	2.1kg	14.8kg

※各試験区の稲の生長の条件を等しくするために、
本研究では窒素ベースで肥料計算を行い上記の量を施肥した。

11108001 相澤 友里
11108116 堀井 雄太

背景

棚田とは・・・

国土の約70%が中山間地域にあり、山の斜面・谷間の傾斜地にある階段状の水田。
土地利用の重要な一翼を担うと共に、洪水防止、
水資源涵養等の国土保全機能を持つ。



棚田には様々な機能があり、棚田の保全は農村風景・農村文化・地域環境を守ることに繋がる。

目的

本研究では肥料の違いによる生産性を比較し、棚田の特性を生かした農業を実践し、その評価を行う。

調査概要

雑草量

田植え後、40～50日頃一定面積の全雑草を抜き取り、乾物重を測定し、1m²当たりの雑草量を算出する。

水質

簡易測定器(水温、pH、DO、EC)
イオンクロマトグラフィー
(陰:PO₄³⁻, NO₃⁻, NO₂⁻, Cl⁻, SO₄²⁻
陽:Na⁺, NH₄⁺, K⁺, Ca²⁺, Mg²⁺)

収量・品質

収穫した米の収量の物理的評価を行うため、単位収量、玄米千粒重、粳わら比、落米率の4項目の調査。品質については、JAに依頼し、アミロース、タンパク質、水分、脂肪酸度を100点満点で表す。

これからの作業

雑草量・水質調査・草刈り・稲刈り
収量・品質調査